

2017年度 所員業績リスト

■浅野倫子

<論文> (査読あり)

Root, N. B., Rouw, R., Asano, M., Kim, C-Y., Melero, H., Yokosawa, K., & Ramachandran, V. S. (2018). Why is the synesthete's "A" red? Using a five-language dataset to disentangle the effects of shape, sound, semantics, and ordinality on inducer-concurrent relationships in grapheme-color synesthesia. *Cortex*, 99, 375-389.

<解説記事>

浅野倫子 (2017). 3-17 「色字共感覚」. 人工知能学大事典. p.140. 共立出版 (2017年7月刊行)

<依頼講演など>

浅野倫子 (2017). 共感覚と音象徴からのぞく認知処理間の潜在的な結びつき. 日本基礎心理学会第63回大会 心の実験パッケージ特別委員会主催のシンポジウム「共感覚的体験：ワークショップと研究の最前線」での講演, 大阪 (2017年12月2日).

Asano, M., Nagai, J., & Yokosawa, K. (2017). The relationship between temporal consistency and sensitivity to regulatory factors in grapheme-color associations. Presentation at the Inaugural Sino-Danish Center Symposium on Synaesthesia, Expertise, and Multi-Sensory Perception, Beijing, China (December 6, 2017).

Yokosawa, K., & Asano, M. (2017). Synesthetic associations in Japanese grapheme-color synesthesia. Presentation at the Inaugural Sino-Danish Center Symposium on Synaesthesia, Expertise, and Multi-Sensory Perception, Beijing, China (December 7, 2017).

浅野倫子 (2018). 知覚コロキウム2018・金沢21世紀美術館共催シンポジウム「知覚の拡張」での指定討論, 金沢 (2018年3月27日).

<学会発表>

Imai, M., Saji, N., Asano, M., & Ohba, M. (2017). The role of contrast in constructing the color lexicon: from the initial mapping to later boundary delineation. Paper presented at Symposium “Multiple perspectives on mechanisms of lexical acquisition” at 14th International Congress for the Study of Child Language (IASCL 2017), Lyon, France (July 2017). (査読あり)

宇野究人・浅野倫子・横澤一彦 (2017). 漢字の文字情報が共感覚色の数に与える影響. 日本心理学会第81回大会, 1A-064, 久留米 (2017年9月). (査読なし)

浅野倫子・津城拓也・横澤一彦 (2017). 新しく学習した文字に対する共感覚色の安定性. 日本心理学会第81回大会, 1D-058, 久留米 (2017年9月). (査読なし)

浅野倫子 (2017). 色字共感覚. 日本心理学会第 81 回大会, 公募シンポジウム 68 「共感覚と直観像: 少数者が持つ感覚的・認知的特性の研究」, 久留米 (2017 年 9 月) (共同企画者, 話題提供).

Asano, M., Nagai, J., & Yokosawa, K. (2017). Temporal consistency in grapheme-color synesthesia covaries with sensitivity to regulatory factors in grapheme-color associations. International Association of Synaesthetes, Artists, and Scientists (IASAS)' first synaesthesia symposium. Los Angeles, USA (October 20, 2017). (査読あり)

Uno, K., Asano, M., & Yokosawa, K. (2017). Influence of grapheme properties on the number of synesthetic colors for Japanese Kanji characters. Object Perception, Attention, and Memory (OPAM) 25th Annual Meeting, Poster session 2 #3, Vancouver, Canada (November 9, 2017). (査読あり)

Yokosawa, K., Kita, S., & Asano, M. (2017). Becoming a “bandwagon fan” of a sports team immediately increases preference for colors associated with the team. 58th Annual Meeting of the Psychonomic Society, 5203, Vancouver, Canada (November 11, 2017). (査読あり)

宇野究人・浅野倫子・横澤一彦 (2018). 漢字の形態情報が共感覚色の数に与える影響. 第 16 回注意と認知合宿研究会, 名古屋 (2018 年 3 月 5 日). [Technical Report on Attention and Cognition (2018), 14, 1-2.] (査読あり)

■江川隆男

<論文> (査読なし)

江川隆男「最小の三角回路について——哲学あるいは革命」(『HAPAX 7——特集・反政治』、夜光社、2017 年 4 月、pp.114-130)

江川隆男「質素であれ、離脱的であれ——デュラスとともに思考すること」(『立教映像身体学研究 6』所収、立教大学映像身体学科学学生研究会編、2018 年 3 月、pp.80-89)

<評論文>

江川隆男「音色戦慄と音調の平面——ジェフ・ベックあるいは〈来るべきギタリスト〉のために」(『文藝別冊 ジェフ・ベック』所収、河出書房新社、2017 年 11 月、pp.92-97)

<翻訳書>

エドワード・G・アンドリュー『コンシアンスの系譜学』(樋口克己、江川隆男、伊藤雅巳、堂園俊彦訳、文化科学高等研究院出版局、2017 年 10 月、pp.90-106, 155-166 [江川担当分])

<鼎談>

佐藤嘉幸、廣瀬純、江川隆男「ドゥルーズ＝ガタリとは誰だったのか？」(2018年1月16日、於 東京八重洲ブックセンター (主催))

<シンポジウム>

松田正隆 (司会)、宇野邦一、江川隆男、大山載吉「カフカ (新訳) : マイナー文学のために」(「カフカ・プロジェクト」、立教大学心理芸術人文学研究所主催、2018年2月18日、於・立教大学新座キャンパス)

■江口正登

<論文> (査読無し)

江口正登 (2017). 「大森靖子、みんなのうたはだれのうた?」、『ユリイカ』第49巻第7号、青土社、168-179頁、2017年4月

<エッセイ>

江口正登 (2017). 「演劇としるし」、『『蟹と歩く』記録集』、悪魔のしるし、全114頁、担当箇所 96-99頁、2017年6月

<事典項目執筆>

江口正登 (2018). 「パフォーマンス・アート」、『アメリカ文化事典』、丸善出版、全960頁、担当箇所 694-695頁、2018年1月

<学会発表>

江口正登. 「アメリカ合衆国における (ポスト) ドラマ理論の展開」、西洋比較演劇研究会 2018年1月例会、2018年1月20日、成城大学

<インタビュー・聞き手>

住友文彦 (聞き手: 江口正登・横山由季子) (2017). 「インタビュー (2) キュレーションの現場から」、表象文化論学会ニューズレター『REPRE』第30号
URL : <http://www.repre.org/repre/vol30/special/30-2/>、2017年7月

■芳賀繁

<論文> (査読有)

大谷華・芳賀繁 (2017). 公正な職場は仕事の誇りと安全行動意思を高めるか: 職業的自尊心-安全行動意思モデルと組織的公正, 情緒的組織コミットメント 産業・組織心理学研

究, 31, 19-35.

大谷華・芳賀繁 (2018). 職業的自尊心と組織的公正が作業安全に及ぼす効果: 多業種における職業的自尊心-安全行動意思モデルの適用 立教大学心理学研究, 60, 41-59.

<学会等での発表>

芳賀繁 (2017). 歩行中のスマートフォン利用が歩行者の注意に及ぼす影響: トレッドミルとウェアラブルカメラで撮影された映像を用いた室内実験, 日本心理学会第 81 回大会発表論文集 (2017 年 9 月, 久留米)

芳賀繁 (2017). 自動車運転の自動化とヒューマンファクタ: オーガナイズド・セッション企画の趣旨, 第 47 回安全工学シンポジウム発表論文集 (2017 年 7 月, 東京)

芳賀繁 (2017). 自動運転時代の運転者教習・教育・訓練のあり方, 第 47 回安全工学シンポジウム発表論文集 (2017 年 7 月, 東京)

芳賀繁 (2017). 心理学からみた安全技術と自動走行—安全技術・自動化技術について技術者が知っておくべきこと—, 自動車技術会 2017 年秋季大会 Technical Review (2017 年 10 月, 大阪)

<書籍>

芳賀繁 (2017). あなたのその「忘れもの」コレで防げます, NHK 出版

■林もも子

<論文>

林もも子 (2017). 成人アタッチメント研究の臨床的意義. 精神療法, 43 巻 4 号, p.474-478 (査読無)

<講演>

林もも子. 思春期の危機のとらえ方と対応—アタッチメントの視点から—. 茅ヶ崎市教育センター主催, 平成 29 年度子育て・子育て出前講座 シリーズ 2 思春期編 (2018 年 2 月 4 日, コミュニティセンター湘南大会議室)

<その他>

アントニア・ビフィルコ&ジェラルディン・トーマス (著), 吉田敬子・林もも子・池田真理 (監訳) (2017). アタッチメント・スタイル面接の理論と実践—家族の見立て・ケア・介入. 金剛出版

林もも子 (2017). 岩崎論文へのコメント, 東洋英和女学院大学心理相談室紀要, vol.21, p175-177

■日高聡太

<論文> (査読有)

Hidaka, S., Higuchi, S., Teramoto, W., and Sugita, Y. (2017). Neural mechanisms underlying sound-induced visual motion perception: An fMRI study. *Acta Psychologica*, 178, 66–72.

<学会発表> (国際学会)

Hidaka, S., Yaguchi, A. Relationships between crossmodal correspondences and autistic traits in typically developing adults. 18th International Multisensory Forum (May, 22, 2017, Nashville, U.S.A.)

<学会発表> (国内学会)

日高聡太, 鈴木陽介, 北川智利. Velvet hand 錯覚の生起要因に関する実験的検討. 第9回多感覚研究会 (2017年12月17-18日, 熊本大学)

日高聡太, 鈴木陽介, 北川智利. Velvet hand 錯覚の生起要因に関する検討-テクスチャおよびマスキングの効果について-. 日本基礎心理学会第36回大会 (2017年12月3日, 立命館大学)

日高聡太, 矢口彩子. 自閉症スペクトラム傾向と感覚間対応づけとの関係性に関する検討. 日本認知心理学会第15回大会 (2017年6月3日, 慶應義塾大学三田キャンパス)

矢口彩子, 日高聡太. 自閉傾向と交差反発知覚における視聴覚相互作用特性との関係性. 日本認知心理学会第15回大会 (2017年6月3日, 慶應義塾大学三田キャンパス)

■堀耕治

<論文> (査読なし)

糸数竜海, 堀耕治 (2018). ハトにおけるヒューストン空港効果, 立教大学心理学研究, 60, 77-85.

■嘉瀬貴祥

<論文>

嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2017). Sense of Coherence による精神的健康の予測可能性に関する検討 —Big Five 性格特性との弁別性の観点から— パーソナリティ研究, 26, 160-162. (査読あり)

坂内くらら・嘉瀬貴祥・木村駿介・大石和男 (2017). プロのピアノ奏者における演奏不安

の発現の包括的構造に関する質的研究—心理・身体・環境要因とパフォーマンスの経時的変化に注目して— ストレスマネジメント研究, 13, 75-84. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2017). パーソナリティ・プロトタイプに基づいた大学生の類型化と精神的健康の関連 日本健康教育学会誌, 25, 195-203. (査読あり)

上野雄己・飯村周平・雨宮怜・嘉瀬貴祥 (2017). 困難な状況からの回復や成長に対するアプローチ—レジリエンス, 心的外傷後成長, マインドフルネスに注目して— 心理学評論, 59, 397-414. (査読あり)

<学会発表>

嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2017). 攻撃性の高低によって個人的・対人的な行動や思考はどう変わるか—攻撃性の高い者と低い者のライフスキルの傾向に注目して— 日本社会心理学会第 58 回大会 (2017 年 10 月 29 日, 広島大学東広島キャンパス) (査読あり, ポスター発表)

嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2017). パーソナリティのタイプによってストレス対処能力は異なるか—パーソナリティ・プロトタイプと Sense of Coherence の関係性— 日本パーソナリティ心理学会第 26 回大会 (2017 年 9 月 7 日, 東北文教大学) (査読あり, ポスター発表)

■川越敏和

<論文> (査読あり)

Kawagoe, T., Matsushita, M., Hashimoto, M., Ikeda, M., Sekiyama, K. (2017). Face-specific memory deficits and changes in eye scanning patterns among patients with amnesic mild cognitive impairment. *Scientific Reports*, 7, 14344.

Kawagoe, T., Onoda, K., & Yamaguchi, S. (2017). Associations among executive function, cardiorespiratory fitness, and brain network properties in older adults. *Scientific Reports*, 7, 40107.

Onoda, K., Kawagoe, T., Zheng, H., & Yamaguchi, S. (2017). Theta band transcranial alternating current stimulations modulates network behavior of dorsal anterior cingulate cortex. *Scientific Reports*, 7, 3607.

Kawagoe, T., Onoda, K., & Yamaguchi, S. (2017). Apathy and Executive Function in Healthy Elderly—Resting State fMRI Study. *Frontiers in Aging Neuroscience*, 9, 124.

和田玲子・久永聡子・郭霞・木村博子・鈴木麻希・川越敏和・積山薫. (2017). 楽器演奏介入が高齢者の認知機能に与える効果について. 広島文化学園大学学芸学部紀要, 7, 51-60.

<招待講演>

川越敏和 (2017). 高齢者における認知・運動能力と脳内ネットワーク. 日本基礎心理学会 2016 年度第 2 回フォーラム (於熊本大学).

<学会発表>

川越敏和・小野田慶一・山口修平. (2017). 「地域在住高齢者における実行機能とアパシーとの関連—安静時脳活動による検討」第 22 回認知神経科学会学術集会 (於慶應義塾大学).

Kawagoe, T., Onoda, K. & Yamaguchi, S. (2017). "What is resting-state? – Two major instructions cause different resting-state networks-" The 40th annual meeting of the Japan Neuroscience Society at Makuhari Messe, Chiba.

川越敏和・小野田慶一・山口修平. (2017). 「高機能高齢者の脳内ネットワーク特性」日本老年医学会第 59 回学術集会 (於名古屋国際会議場).

川越敏和・小野田慶一・山口修平. (2017). 「高齢者の認知・運動機能間関連における脳機能のネットワーク的特性」日本ヒト脳機能マッピング学会第 19 回大会 (於京都大学).

■香山リカ

<著作>

井上達夫, 香山リカ (2017). 憲法の裏側:明日の日本は…, ぶねうま舎, 全 216 頁

井上達夫, 香山リカ (2017). トランプ症候群 明日の世界は…, ぶねうま舎, 全 218 頁

香山リカ, 北原みのり (2017). フェミニストとオタクはなぜ相性が悪いのか 「性の商品化」と「表現の自由」を再考する, イースト・プレス, 全 248 頁

香山リカ (2017). 保健室と社会をつなぐ, 本の泉社, 全 206 頁

香山リカ (2017). 「いじめ」や「差別」をなくすためにできること, 筑摩書房, 全 170 頁

香山リカ (2017). 明るい哲学の練習 最後に支えてくれるものへ, ぶねうま舎, 全 240 頁

香山リカ (2017). 人生が劇的に変わる スロー思考入門, ビジネス社, 全 187 頁

香山リカ (2017). さよなら、母娘ストレス, 新潮社, 全 193 頁

<著書以外の著作>

細田昌志 (著), 香山リカ(対) (2017). ミュージシャンはなぜ糟糠の妻を捨てるのか?, イースト・プレス, 全 248 頁

伊地知紀子(編), 新ヶ江章友(編), 香山リカ(著), &14 名 (2017). 本当は怖い自民党改憲草案, 法律文化社, 全 234 頁

スタジオジブリ(編), 文春文庫(編), 香山リカ(解説) (2017). ジブリの教科 14 ゲド戦記, 文藝春秋, 全 230 頁

<学会発表>

優生思想は“過去の亡霊”か—現代日本の排外主義から考える, 第 113 回日本精神神経学会
学術総会, 名古屋国際会議場, 2017.6.23

<論文>

香山リカ. 感情労働化する医師の仕事, 大阪保険医雑誌, 4-6, 2017-12

香山リカ. 「差別」が臨床の場に侵入するとき, 外来精神科診療シリーズ 3, 10-14, 2017-11

香山リカ. 「すぎること」と「だまされること」の精神病理, 臨床精神病理 38(02), 183-190,
2017-08

香山リカ. ネット社会における"コミュ障"("コミュ障"を超えて)-(ディスコミュニケーションの実態), こころの科学(191), 51-56, 2017-01

■中村秀之

<論文>

中村秀之 『『市民ケーン』のガラス球——パストラル・モードによる階級表象』, 『立教映像
身体学研究』6号, 45-64 頁, 2018年3月(査読なし「教員研究論文」)

<研究ノート>

中村秀之 「アンドレ・バザンの « présence » について」, 『アンドレ・バザン研究』2号, 68-79
頁, 2018年3月(依頼)

<総説・解説記事・単独>

中村秀之 「ブックガイド——中村秀之『特攻隊映画の系譜学——敗戦日本の哀悼劇』, 『表
象』12号, 表象文化論学会, 285 頁, 2018年3月(依頼)

中村秀之 「初期トーキーで開かれる知覚(プロが選ぶ新入生の見べき映画4選)」, 『東京
大学新聞』, 7 頁, 2017年4月18日(依頼)

<学会発表>

中村秀之 『『市民ケーン』(1941)における階級表象とその歪曲——W・エンブソンの「牧
歌」論を手がかりとして」, 日本映像学会第43回大会研究発表, 2017年6月4日(日),
神戸大学(日本映像学会会報180号13頁に報告掲載)

<その他の口頭発表>

中村秀之 「パストラルとメロドラマ——ハリウッド映画の表象モードを再考する」, 北海道
大学映像・現代文化論学会創立大会講演, 2017年11月11日(土), 北海道大学(招待)

中村秀之 「映画はワンダー! ~いつもと違う映画の見方~」, としまコミュニティ大学・

一般公開講座, 2017年11月4日(土), 立教大学池袋キャンパス(依頼)

中村秀之「映画のペーパーチェイス——2003年, LAでの「特別資料」調査」, 第12回映画の復元と保存に関するワークショップ, 特別企画「映画資料カンファレンス in 東京」, 2017年8月26日(土), 電気通信大学(招待)

<競争資金の獲得>

中村秀之「ニューディール後期のハリウッド映画における階級表象とパストラル・モード」
2017年度立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)個人研究

■中山真里子

<論文>(査読あり)

Nakayama, M., & Lupker, S. J. (in press). Is There Lexical Competition in the Recognition of L2 Words for Different-Script Bilinguals? An Examination Using Masked Priming with Japanese-English Bilinguals. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*.

Lupker, S. J., Nakayama, M., & Yoshihara, M. (in press). Phonologically-based priming in the same-different task with L1 readers. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory and cognition*.

Nakayama, M., Lupker, S. J., & Itaguchi, Y. (2018). An examination of significant L2-L1 noncognate translation priming in the lexical decision task: Insights from distributional and frequency-based analysis. *Bilingualism: Language and Cognition*, 21, 265-277.

Yoshihara, M., Nakayama, M., Verdonschot, R. G., & Hino, Y. (2017). The phonological unit of Japanese Kanji compounds: A masked priming investigation. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, 43, 1303-1328.

Perea, M., Nakayama, M., & Lupker, S. J. (2017). Alternating-script priming in Japanese: Are Katakana and Hiragana characters interchangeable? *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 43, 1140-1146.

<学会等での発表>

Ida, K., Nakayama, M., & Lupker, S. J. (2017, November). L2-L1 noncognate translation priming effects in episodic recognition and lexical decision tasks: A test of the episodic L2 hypothesis. To be presented at the 58th annual meeting of the Psychonomic Society, Vancouver, B.C., Canada.

Yoshihara, M., Nakayama, M., & Verdonschot, R. G., & Hino, Y. (2017, November). The Phonological unit of Japanese Kanji words: Revisited by the masked priming picture naming

task. To be presented at the 58th annual meeting of the Psychonomic Society, Vancouver, B.C., Canada.

■小口孝司

<論文>

Kawakubo, A., Kasuga, H., & Oguchi, T. (2017). Effects of a short-stay vacation on the mental health of Japanese employees. *Asia Pacific Journal of Tourism Research*, 22, 565-578.

<学会発表>

Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2018). Effects of Recovery Experience during Vacations on Promoting Employees' Life Satisfaction and Occupational Well-Being, 19th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Atlanta, USA. 3/3.

Kawakubo, A., Yamaguchi, K., & Oguchi, T. (2017). Recovery experiences during vacation promotes life satisfaction of Japanese employees through creative behaviors. 23rd Asia Pacific Tourism Association Conference, Busan, Korea. 6/18.

Hanai, T., & Oguchi, T. (2017). Empathy and Preference for Tourism destinations. 23rd Asia Pacific Tourism Association Conference, Busan, Korea. 6/19.

Miyagawa, E., & Oguchi, T. (2017) The benefits of orientation trip on skill development and mental health. 12th Asian Association of Social Psychology Conference, Auckland, New Zealand. 8/26.

Tanaka, Y., & Oguchi, T. (2017). A Positive Aspects of Sensitive Person. 12th Asian Association of Social Psychology Conference, Auckland, New Zealand. 8/28.

川久保惇・小口孝司 (2017). 感謝経験の享受が精神的健康に及ぼす影響. 日本心理学会第81回大会, 久留米シティプラザ (久留米大学), 9/20.

石黒昂祐・小口孝司・杉浦義典 (2017) フロー体験とマインドフルネスの関連 —挑戦と能力を調整変数として—. 日本心理学会第81回大会 (久留米シティプラザ), 9/21.
(学術大会優秀発表賞受賞, 日本心理学会)

川久保惇・小口孝司 (2017). 旅行会社のHPは何を表すことが重要なのか. 観光研究学会第32回全国大会 金沢 (金沢星稜大学), 12/2.

■大石幸二

<研究論文> (査読あり)

Oishi, K. (2017). Relationship between nonverbal behavior of consultants and consultees: A preliminary study. *Psychology*, 8, 828-836.

- Oishi, K., Suto, K., Nakauchi, A., Watanabe, T., Takemori, A., & Toyota, M. (2017). Relationship between spontaneous speech function and behavior rating inventory of executive function profile in children with autism spectrum disorders: A pilot case study. *Psychology*, 8, 2138-2145.
- 大石幸二 (2017). 自・他のあいだの「間」—身体と生命をめぐる課題—. *人間関係学研究*, 22, 61-67.
- 中内麻美・竹森亜美・福田惇総・大石幸二 (2017). 知的障害が疑われる生徒に対する意思決定の支援—「話し合い表」による指導効果の検証—. *臨床発達心理実践研究*, 12, 113-119.
- 太田研・遠藤愛・大石幸二 (2017). 幼児の身体面の描出に及ぼす能動的触知覚活動の効果. *保育学研究*, 55, 97-108.
- 奈良理央・増田貴人・大石幸二 (2017). 通所しぶりを示した知的障害者の通所行動を再形成するための知的障害者施設への行動コンサルテーション. *発達障害研究*, 39, 368-378.
- 大石幸二 (2017). 行動コンサルテーションの問題同定面接におけるコンサルタントの言語行動および非言語行動の生起特徴に関する予備的分析. *発達障害研究*, 39, 379-384.
- 奈良理央・増田貴人・大石幸二 (2017). 行動コンサルテーションによる知的障害者支援施設職員の知識・態度の変容とバーンアウト・リスクの軽減. *発達障害研究*, 39, 400-410.
- <研究論文> (査読なし)
- 大石幸二 (2017). 特別支援教育の実践深化に学校ソーシャルワークが求められる理由. *発達障害研究*, 39, 1-8.
- <著書> (翻訳を含む)
- 大石幸二 (2017). 外部専門家による訪問型の学校・教員支援 (巡回相談) とユニバーサルデザイン. 阿部利彦編著, *授業のユニバーサルデザインと合理的配慮*. 金子書房, Pp.152-156.
- 大石幸二 (2017). 特別支援教育における行動コンサルテーションの実践 (柘植雅義&『インクルーシブ教育の未来研究会』編) 特別支援教育の到達点と可能性—2001～2016年: 学術研究からの論考—. 金剛出版, Pp.90-93.
- 大石幸二 (2017). これからのコンサルテーション (第5章), カウンセリング・マインドで取り組む学級経営 (第6章) (柘植雅義編集代表, 大石幸二・鎌塚優子・滝川国芳編) 連携とコンサルテーション—多様な子供を多様な人材で支援する—. *ぎょうせい*, Pp.43-58.
- 大石幸二 (2018). 相談事例⑤・⑩ (金谷京子編) 発達と保育を支える巡回相談—臨床発達支援とアセスメントのガイドライン—. 金子書房, p.117, 162.
- 大石幸二 (2018). 実践研究における単一事例デザインを用いた方法 (本郷一夫編著) *実践*

研究の理論と方法. 金子書房, Pp. 28-36.

<学会発表>

大石幸二 (2017). 行動コンサルテーションにおける非言語的相互作用—コンサルタントがコンサルティに及ぼす影響の検討—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P5-81.

竹森亜美・中内麻美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(1)—自発的な言語化と自己選択を促進する条件の検討—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P7-10.

中内麻美・竹森亜美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(2)—「話し合いカード」を用いた自己と他者の好みをふまえた活動選択と言語化の関連性—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P7-11.

霜田浩信・五十嵐一徳・井澤信三・太田研・五味洋一・竹内康二・若林功・大石幸二 (2017). 知的障害・発達障害児へのセルフ・マネジメントによる支援(2)—セルフ・マネジメント適用条件と課題—日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), 自主シンポジウム 6-13.

中内麻美・大石幸二・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季 (2018). 発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—環境設定や他者の状況による多面的な語りの生成に関する条件生起的分析 (第 I 報) —. 日本発達心理学会第 29 回大会 (東北大学川内北キャンパス), P2-44.

<取材・報道・記事>

発達障害の講演を開催. 読売新聞 (埼玉中央よみうり). 2017 年 8 月 25 日版.

■佐藤一彦

<受賞>

4K 徳島国際映画祭 2017・優秀賞

佐藤一彦 (2016). 「4K でよみがえる浮世絵・2・歌川広重『名所江戸百景』～江戸の豊穡な色世界をめぐる～」(4K/HDR による映像作品)

プロデュース・構成・演出 佐藤一彦

■都築誉史

<論文> (査読あり)

相馬正史・都築誉史 (2018). 2 属性 3 選択肢意思決定課題での幻選択肢セットにおけるニュー

ーラルネットワークモデルの検討, 立教大学心理学研究, 60, 87-98.

<著書>

都築誉史 (2017). ICT・情報行動心理学への招待 (第1章) 都築誉史 (編) ICT 情報行動心理学 (pp. 1-20) 北大路書房 (全170頁)

都築誉史 (2017). 集団による課題遂行とコミュニケーション(第5章) 都築誉史(編) ICT 情報行動心理学 (pp. 107-127) 北大路書房 (全170頁)

<学会発表> (国際学会)

Seshita, Y. & Tsuzuki, T. (2017). Examination of the influence of structural incongruity on humor processing by measuring event-related potential. Abstract of the 38th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making, Poster Session No.1-143. (2017年9月, Vancouver, Canada) (査読あり)

Tsuzuki, T., & Chiba, I. (2017). A time-series eye-fixation analysis of the similarity-compromise effect. Proceedings of the 38th Annual Conference of the Cognitive Science Society, Poster-2, No.78. (2017年7月, London, UK) (査読あり)

<学会発表> (国内学会)

菊地学・都築誉史 (2017). 商品知識とプレゼントの授受関係が妥協効果に与える影響 日本心理学会第81回大会発表論文集, 3A-052. (2017年9月, 久留米シティプラザ) (査読なし)

■山田哲子

<論文> (査読無し)

山田哲子 (2017). 障がい者支援者を支援する. 日本家族心理学年報 35. 個と家族を支える心理臨床実践Ⅲ—支援者支援の理解と実践 日本家族心理学会(編), 金子書房, Pp91 - 99.

<学会発表> (国際学会)

Ohnishi, M., Otaki, R., Odagiri, N., Murata, C., Soyama, I., Sugimoto, M., Honda, M., Yamada, T., Fukumaru, Y. (2017). The effectiveness of Psycho-educational program for divorcing family in Japan, 2017, Asian Academy of Family Therapy 4th Annual Conference

<学会発表> (国内学会)

本田麻希子, 大西真美, 曾山いづみ, 山田哲子, 杉本美穂, 福丸由佳, 大瀧玲子, 村田千晃,

小田切紀子, 青木聡, 藤田博康. 「離婚を経験した家族への FAIT プログラムの試行実践 (7)―FAIT プログラム実践の意義と課題―」(2017 年) 日本家族心理学会第 34 回大会
福丸由佳, 曾山いづみ, 山田哲子, 杉本美穂 (2017). 離婚家庭と子どもへの支援～FAIT (Family In Transition) プログラムの紹介と実践～」日本家族心理学会第 34 回大会ワークショップ

■山本尚樹

<学会発表> (国内学会)

山本尚樹 (2017). 乳児における腹臥位から座位への姿勢転換運動. 日本発達心理学会第 29 回大会 (査読なし)

<学会発表> (国際学会)

Naoki Yamamoto. Intrinsic Dynamics in the Acquisition Process for the Turning-Over Movement in Infancy. *Study in Perception-Action* X I V. pp.117-120, 2017. (査読あり)

<講演>

山本尚樹. 運動発達の基礎理論と「個」について. 小児リハビリテーション勉強会. (2017 年 12 月).

■安田みどり

<学会発表>

安田みどり (2017). 心理学の学習経験による心理専門職への援助要請態度と意図の比較―早期介入の取り組みに向けて― 日本カウンセリング学会第 50 回記念大会

安田みどり (2017). 学校コミュニティにおけるスクールカウンセラーの役割の検討―勤務日数の違いに対する援助要請意図の比較から― 日本コミュニティ心理学会第 20 回記念大会

■中内麻美

<研究論文> (査読あり)

Oishi, K., Suto, K., Nakauchi, A., Watanabe, T., Takemori, A., & Toyota, M. (2017). Relationship between spontaneous speech function and behavior rating inventory of executive function profile in children with autism spectrum disorders: A pilot case study. *Psychology*, 8, 2138-2145.

中内麻美・竹森亜美・福田惇総・大石幸二 (2017). 知的障害が疑われる生徒に対する意思決定の支援—「話し合い表」による指導効果の検証—. 臨床発達心理実践研究, 12, 113-119.

<著書>

中内麻美 (2018) 子どもの発達を理解する (第 2 章). (編著者: 中田範子) 幼稚園・小学校教育実習—学びの連続性を通して—. 大学図書出版 (2018 年 3 月 31 日出版予定)

<学会発表>

竹森亜美・中内麻美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(1)—自発的な言語化と自己選択を促進する条件の検討—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P7-10.

中内麻美・竹森亜美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(2)—「話し合いカード」を用いた自己と他者の好みをふまえた活動選択と言語化の関連性—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P7-11.

中内麻美・大石幸二・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季 (2018). 発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—環境設定や他者の状況による多面的な語りの生成に関する条件生起的分析 (第 I 報) —. 日本発達心理学会第 29 回大会 (東北大学川内北キャンパス), P2-44.

■竹森亜美

<研究論文> (査読あり)

Oishi, K., Suto, K., Nakauchi, A., Watanabe, T., Takemori, A., & Toyota, M. (2017). Relationship between spontaneous speech function and behavior rating inventory of executive function profile in children with autism spectrum disorders: A pilot case study. Psychology, 8, 2138-2145.

中内麻美・竹森亜美・福田惇総・大石幸二 (2017). 知的障害が疑われる生徒に対する意思決定の支援—「話し合い表」による指導効果の検証—. 臨床発達心理実践研究, 12, 113-119.

<学会発表>

竹森亜美・中内麻美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(1)—自発的な言語化と自己選択を促進する条件の検討—. 日本特殊教育学会第 55 回大会 (愛知教育大学; 名古屋国際会議場), P7-10.

中内麻美・竹森亜美・大石幸二 (2017). 発達障害児の主体的な活動参加の支援(2)—「話し

合いカード」を用いた自己と他者の好みをふまえた活動選択と言語化の関連性一。日本特殊教育学会第 55 回大会（愛知教育大学；名古屋国際会議場），P7-11.

中内麻美・大石幸二・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季（2018）. 発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—環境設定や他者の状況による多面的な語りの生成に関する条件生起的分析（第 I 報）一。日本発達心理学会第 29 回大会（東北大学川内北キャンパス），P2-44.

■豊田真季

<研究論文>（査読あり）

Oishi, K., Suto, K., Nakauchi, A., Watanabe, T., Takemori, A., & Toyota, M. (2017). Relationship between spontaneous speech function and behavior rating inventory of executive function profile in children with autism spectrum disorders: A pilot case study. *Psychology*, 8, 2138-2145.

<学会発表>

中内麻美・大石幸二・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季（2018）. 発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—環境設定や他者の状況による多面的な語りの生成に関する条件生起的分析（第 I 報）一。日本発達心理学会第 29 回大会（東北大学川内北キャンパス），P2-44.

■渡邊孝継

<研究論文>（査読あり）

Oishi, K., Suto, K., Nakauchi, A., Watanabe, T., Takemori, A., & Toyota, M.(2017). Relationship between spontaneous speech function and behavior rating inventory of executive function profile in children with autism spectrum disorders: A pilot case study. *Psychology*, 8, 2138-2145.

渡邊孝継（審査中）. 神経発達症児への支援プログラムに参加する大学生を対象としたスタッフトレーニングの効果—習得される応用行動分析に関する知識の分析—。人間関係学研究

渡邊孝継・山口暁・豊田真季・竹森亜美・中内麻美・大石幸二（投稿準備中）. 自閉スペクトラム症児の対人葛藤場面における互惠的な分配行動の獲得—他者との円滑な対人交渉を目指して—。言語文化学研究

<学会発表>

渡邊孝継 (2017) . 自閉症スペクトラム障害児における社会的コミュニケーションの促進に関する研究—他者の対人反応を手がかりとして—. 日本人間関係学会第 25 回大会 (千葉商科大学)

中内麻美・大石幸二・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季 (2018) . 発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—環境設定や他者の状況による多面的な話りの生成に関する条件生起的分析 (第 I 報) —. 日本発達心理学会第 29 回大会 (東北大学川内北キャンパス)

<研究助成>

平成 29 年科学研究費助成事業若手 B (日本学術振興会)

研究課題：自閉症スペクトラム障害児における他者の視線理解による社会的相互作用の促進

課題番号：17K18172 研究代表者：渡邊孝継

助成額：1,300,000 円 研究助成期間：2017 年 4 月～2019 年 3 月

平成 29 年度第 12 回児童教育実践についての研究助成 (公益財団法人博報児童教育振興会)

研究課題：発達障害児の自律的な行動調節の支援パッケージの開発—自発的なことばと行動調節の関連の検討—

研究番号：2017-36 研究代表者：中内麻美 共同研究者：渡邊孝継・竹森亜美

助成額：1,408,000 円 研究助成期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月